



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田 1030-2
お問合せは下記へ
43-0468
(福田 明)
42-2462
(鈴木やす子)

毎週 日曜日 発行

3月議会

鈴木やす子議員の一般質問から

3月定例議会において日本共産党の鈴木やす子議員は、地域の交通システム、障害者自立支援法、介護保険、新農政の4点について一般質問をおこないました。このうち、と について要旨を紹介します。

市民の足の確保を

【鈴木やす子議員】巡回バスが市民に定着してきているが、路線バスの運行がこの春から大幅に変更され、土日運行がなくなることにに対し、代替策は残念ながら検討されていません。また、介護保険利用者やお年寄り・障害者の移送サービスをNPO法人にも拡大する方向で検討されているもの、その対象は限定的である。そうしたなかで、車に乗れない人の移動手段が奪われる結果となっている。利便性の高い交通システムを考えることは、街全体の活性化をはかるためにも重要ではないか。市当局として新たな形態、たと

えばデマンド交通システムなどを含む総合的な交通システムを検討することを提案したい。

【市長公室長】JR、タクシー、路線バスのほかに、市として巡回バスを運行している。重度障害の方にはタクシー券の助成、そして外出困難者には福祉送迎を協議会にて検討中である。交通機関は営利企業が多く参入しているため、市独自の交通システムの検討はしない。

【鈴木議員】東海村では、社会福祉協議会がタクシー業界の共同出資に委託する形で、デマンド方式(乗り合いタクシー)が始まった。福島県の旧小高町(現在は南相馬市)では

商工会が主体となって、やはりデマンド方式がとりいれられている。

各地の先進事例を研究し、市民の声を聞いて知恵をしぼり、移動の自由、移動の楽しみが確保されるよう、当局の努力を求めたい。

農政とまちづくり

【鈴木議員】07年度より、国の新しい農政(品目横断政策)が実施段階に入る。その内容と、認定者の見通しを問う。また、それだけでは全体の農業従事者をつかみきれないと考えるが、ひろく農業後継者をどう考え、とらえるのか、市長の考えをうかがう。

さらに、農家の育成とまちづくりの柱として考えているグリーンツーリズムとの関係をどう考えるか。

【市長】国の政策の詳細は未知からない。ただ環境整備については、地域の農家以外の方との共同も助成の対象になるようなので、そういう点からの街の整備には取り組んでいく。

【鈴木議員】品目横断政策というが、要は4ha超の大規模

農家に形ばかりの助成をするだけで、その他はほぼ対象にしないという話ではないか。

なお、グリーンツーリズムに関わるいくつものグループがあり、生産と販売、市民との交流に励んでいるが、まだまだ多くはない。地域の田畑の景観を守るためにも、稲作の小さい兼業農家も含め、生産が成り立つ政策の展開が必要だ。

「売れる米づくり」と言っとき、消費者のニーズをみれば、安全・安心というのが大きなキーワードである。市内で4戸ぐらいの生産者しか相手にしないような国の政策を待っていたのでは、地域の農業はつ

徳小 新校舎落成記念式典

新校舎落成記念式典

明徳小学校の新体育館の完成にあわせ、記念式典が3月12日に開かれました。アトラクションでは、子どもたちの元気な歌声が響き、寄贈されたピアノの弾き初めや、地元の獅子舞、茨城官楽合奏団の演奏が披露されました。

新体育館は、天井に鉄骨を隠すように断熱材が貼られ、安全性と吸音性に優れている

ぶれてしまつ。農協まかせでなく、循環型・低農薬・有機農法の研究を市当局としてもぜひ検討すべきである。

とのことで、たしかに歌声や楽器の音もすつきりと響いていました。洗面所はバリアフリー対応で、身障者用トイレやベビーベッドのほか、市内公施設では初めてオストメイト対応の洗面台も設置されました。



ご相談はお気軽に



市議会議員
鈴木やす子
42-2462



市議会議員
福田 明
43-0468

「北茨城民報」はインターネットでもご覧いただけます。
<http://www.jcp-ktib.com/>

編集部では身近な情報をお待ちしています。